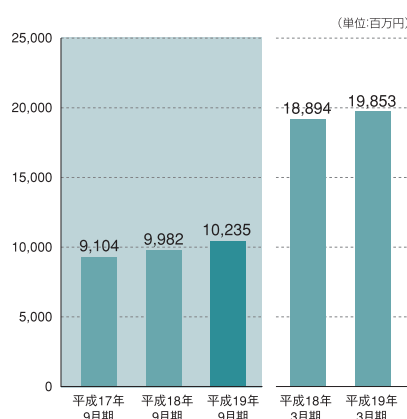


業績のハイライト（個別）

The highlight of achievements

経常収益

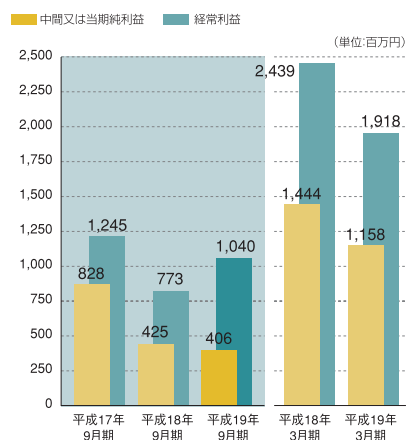
経常収益は、有価証券利息配当金及び投資信託等の預かり資産手数料が増加したことや、株式等売却益を計上したことなどから、102億35百万円（前年同期比2.5%増）となりました。



経常利益・中間純利益

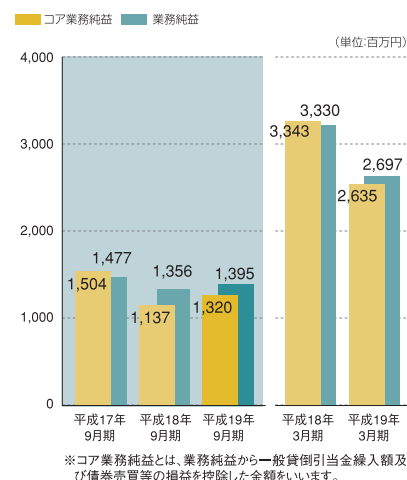
経常利益は、貸倒償却引当費用（一般貸倒引当金繰入額＋不良債権処理額）が前年同期比で2億68百万円減少したことなどから、10億40百万円（前年同期比34.4%増）となりました。

中間純利益は、会計制度の変更にともない睡眠預金払戻に対する引当金等を新たに計上したことなどから、4億6百万円（前年同期比4.5%減）となりました。



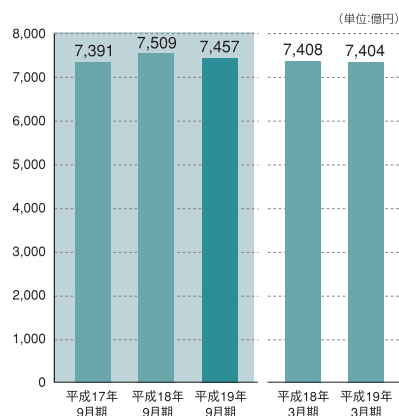
業務純益・コア業務純益

銀行の本業の収益力を表すコア業務純益は、資金利益及び役務取引等利益が増加したことや経費の削減に努めたことなどから、13億20百万円（前年同期比16.1%増）となりました。



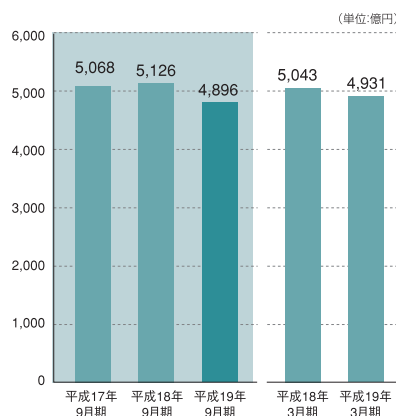
預金・譲渡性預金残高

預金・譲渡性預金残高は、主力の個人預金は堅調に推移したものの、法人預金及び公金が減少したことなどから、7,457億48百万円（前年同月比0.6%減）となりました。



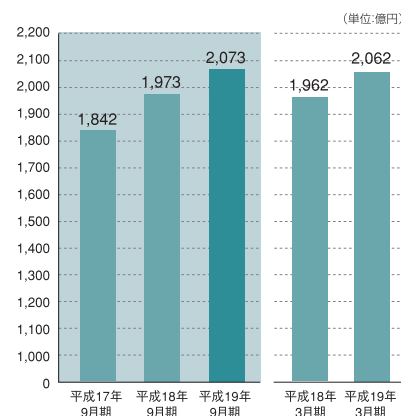
貸出金残高

貸出金残高は、地方公共団体向け貸出が堅調に推移したものの、中小企業向け貸出や住宅ローンが減少したことなどから、4,896億85百万円（前年同月比4.4%減）となりました。



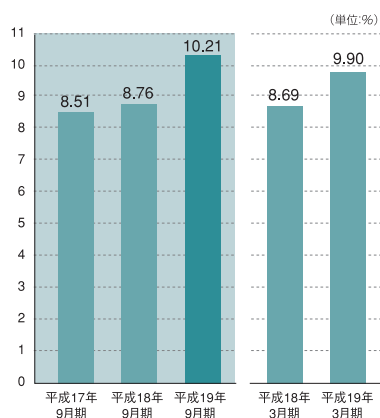
有価証券残高

有価証券残高は、市場動向等を勘案し、リスクの分散を図りながら、資金の効率的かつ安定的な運用に傾注した結果、2,073億89百万円（前年同月比5.0%増）となりました。



単体自己資本比率（国内基準）

単体自己資本比率（国内基準）は、前年同
期比1.45ポイント上昇し、10.21%となりました。



格付

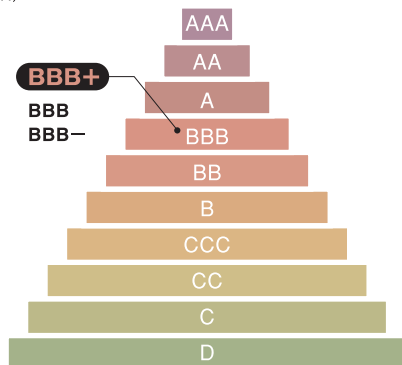
当行では、第三者による評価をととして、財
務内容の健全性と経営の透明性を積極的に
開示していくことにより、株主やお取引先の皆
さまに当行の経営状況をより深くご理解いた
だくことを目的に、平成19年10月に株式会社日本
格付研究所（JCR）より格付を取得いたしました。

格付機関
株式会社日本格付研究所（JCR）

格付種類
長期優先債務格付

格付
BBB+（トリプルBプラス）

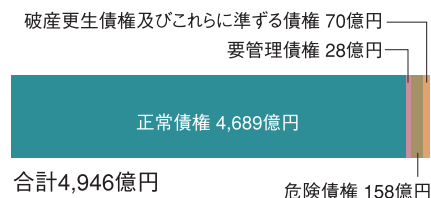
見通し
安定的



金融再生法開示債権

金融再生法に基づいた資産査定の結果、
銀行の保有する債権（貸出金・支払承諾見
返等）のうち、正常債権以外の債権額は、257
億77百万円（前年同月比54億26百万円減）
となりました。

金融再生法に基づく開示債権額（平成19年9月現在）



金融再生法開示債権の保全内訳

（平成19年9月末現在、単位：百万円）

	債権額（A）	保全額（B）	担保・保証等	貸倒引当金	保全率（B/A）
破産更生債権及びこれらに準ずる債権	7,068	7,068	5,166	1,902	100.00%
危険債権	15,813	14,475	12,987	1,487	91.54%
要管理債権	2,894	1,401	873	528	48.42%
合計	25,777	22,945	19,027	3,918	89.02%

破産更生債権及びこれらに準ずる債権

破産手続開始、更生手続開始、再生手続開始の申立て等
の事由により経営破綻に陥っている債務者に対する債権及
びこれらに準ずる債権。

危険債権

債務者が経営破綻の状態には至っていないが、財政状態
及び経営成績が悪化し、契約に従った債権の元本の回収
及び利息の受取りができない可能性の高い債権。

要管理債権

3ヵ月以上延滞債権及び貸出条件緩和債権。

正常債権

債務者の財政状態及び経営成績に特に問題がないものと
して、上記3つの債権以外のものに区分される債権。

不良債権比率の推移

